

強者の戦略

こんにちは。日本史の岡上です。師走ですね。いよいよ 2014 年も残すところあと僅か。目前に迫った受験に向けて、悔いなく毎日を過ごしたいですね。

さて、みなさん、1 週間ほど時間がありました。どのような解答が仕上がったのでしょうか？今回取り上げた東大日本史の第 3 問は近世からの出題で、長州征討を題材に幕藩体制下における軍事動員を考えさせる問題でした。「長州征討」や「軍事動員」など、普段はあまり突っ込んで考えない分野かもしれませんが、一瞬怯んでしまったかもしれませんが、いつものように資料文を丁寧に読み込むことで、しっかりと解答が得られたと思います。

それでは早速解説を始めていきましょう。

<長州征討における軍事動員>

設問

A 長州征討に際し、どのような人々が、どのように動員されたのか。2 行以内で述べなさい。

設問のテーマは「**長州征討に際し、どのような人々が、どのように動員されたのか**」でした。ちなみに長州征討が、1864 年と 1866 年の二度にわたり江戸幕府が長州藩の処分(長州処分)をするために長州藩領のある周防国・長門国へむけ征討の兵を出した事件であるという知識はありますよね。

このテーマに関しては資料文(1)・(2)で言及されていますので、順番に確認していきましょう。

それでは資料文(1)から確認していきましょう。

(1) 1864 年、禁門の変で敗れた長州藩を朝敵として追討することが決まると、幕府は征討軍の編成に着手し、従軍する諸大名・旗本に対して、定め通りの、各自の知行高に応じた数の人馬や兵器を用意することを命じた。

資料文(1)からは、幕府・諸藩の武士に対する軍役動員について読み取ることができます。

- ・幕府は征討軍の編成において、諸大名・旗本の従軍を求めた
- ・諸大名・旗本は定め通りの、各自の知行高に応じた数の人馬や兵器(=もちろん諸大名や旗本の家臣団が中心となる)を用意した

つまり、長州征討に際して「**諸大名・旗本は知行高に応じた家臣団を率いて従軍した**」とまとめることができます。

つぎに資料文(2)を確認してみましょう。

強者の戦略

(2) 幕府や諸藩は、武器・弾薬や兵糧などを運搬するため、領内の村々に、村高に応じた数の人夫を出すことを命じた。こうした人夫の徴発は村々の負担となった。

資料文(2)では、幕府・諸藩の村々の人々、つまり百姓に対する動員について読み取ることができます。

- ・幕府や諸藩は、武器・弾薬や兵糧などを運搬するため、領内の村々に動員をかけた
- ・領内の村々は、村高に応じた数の人夫を負担した

つまり、長州征討に際して「**百姓は村高に応じた数の人夫を負担した**」とまとめることができます。

このように長州征討に際して、武士は「知行高」に応じて、百姓は「村高」に応じて動員が行われており、その両者はいずれも**石高制に基づいて、石高を統一基準として軍事動員が行われている**ことがわかります。

以上をまとめて、解答を作成してみましょう。

【解答例】

石高制のもと、諸大名・旗本が知行高に応じた家臣団を率いて従軍する一方、百姓が村高に応じた人夫として動員された。(55字)

<軍事動員が与える幕藩体制への影響>

設問

B 再度の長州征討に際し、多くの藩が出兵に消極的となった理由としてどのようなことが考えられるか。諸藩と民衆の関係に注目して、3行以内で述べなさい。

設問のテーマは「**再度の長州征討に際し、多くの藩が出兵に消極的となった理由**」。条件として「**諸藩と民衆の関係に注目**」することが求められています。まずは資料文(4)から確認していきます。

(4) 長州藩は、いったん屈伏したが、藩論を転換して再び幕府に抵抗した。このため幕府は、1865年、長州藩を再度征討することに決定した。しかし、長州藩と結んだ薩摩藩が幕府の命令に従わなかっただけでなく、他の藩の多くも出兵には消極的となっていた。

資料文(4)はこの設問の根拠になっていますね。「幕府は、1865年、長州藩を再度征討することに決定した」にもかかわらず、「(薩摩藩以外の)他の藩の多くも出兵には消極的となっていた」とあります。ちなみに、薩摩藩が幕府の命令に従わなかったのは、この時点で薩摩藩は開国進取に転じ、ひそかに長州藩を支持する態度を取っていたからですね(翌1866年には薩長同盟が成立します)。つまり、政治情勢から考えて薩摩藩は出兵に消極的であったわけですが、実は他の藩の多くも出兵には消極的であったとのこと。「薩摩藩」と「他の藩の多く」と分けて書いてあることから、そこには政治情勢以外の理由があったことがわかります。そう、ここで設問の条件である「**諸藩と民衆の関係に注目**」する必要が出てくるのです。では、資料文(2)・(3)から読み取っていきましょう。

強者の戦略

(2) 幕府や諸藩は、武器・弾薬や兵糧などを運搬するため、領内の村々に、村高に応じた数の人夫を出すことを命じた。こうした人夫の徴発は村々の負担となった。

(3) 幕府や諸藩は、長州征討に派遣する軍勢のため、大量の兵糧米を集めた。さらに、商人による米の買い占めなどもあって、米価が高騰した。

資料文(2)からは**人夫の徴発が村々の負担となっていたこと**、資料文(3)からは**幕府・諸藩による大量の兵糧米の徴発や商人による米の買い占めによって米価が高騰したことを**読み取ることができます。このような事態は第一次長州征討で発生したことです。もちろん再度の長州征討（第二次長州征討）に際しても起こり得ることであるわけです。

では、村々に負担が課され、その一方で米価が高騰するという事態は、諸藩にどのように影響を及ぼすのでしょうか。

まず、**村々への負担の増加は百姓一揆の原因**になるでしょうし、**米価の高騰は都市における打ちこわしの原因**になります。諸藩にとっては百姓一揆や打ちこわしの発生は領内の支配を揺るがす事態であり、ここに多くの藩が出兵に消極的となった理由を求めることができるのです。

以上をまとめて、解答を作成してみましょう。

【解答例】

人夫の徴発による村々への過重な負担や、兵糧米の徴集・商人の米の買い占めなどによる米価の高騰は、藩内における百姓一揆や打ちこわしを誘発し、幕藩領主の支配を揺るがす恐れがあったから。
(89字)

さて、みなさんの解答はいかがだったでしょうか？

論述問題の解答はもちろん一つではありませんので、「これはどうだろうか？」と自分では判断つかないものは必ず、添削してもらうことをお勧めします。**この『強者の戦略WEBサイト』でもメールにて質問を受け付けていますので、どしどし送ってきてくださいね。**

それでは、今回はこの辺にいたしましょう。次回「東大日本史のみかた」をお楽しみに！！